

米国金融政策（2019年10月）

3会合連続の利下げで当面様子見姿勢に

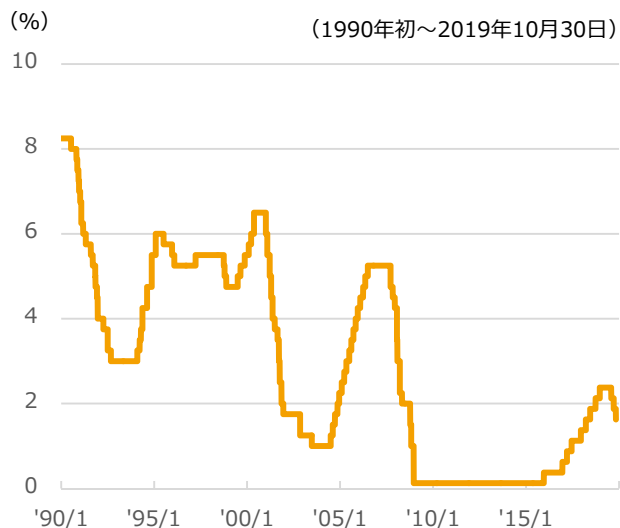
2019年10月31日

現行の政策金利水準の下、緩和的な金融環境が長期化

2019年10月29、30日（現地）開催のFOMC（米国連邦公開市場委員会）では、大方の予想通り、政策金利が1.5～1.75%へ0.25%ポイント引き下げられました。3会合連続の利下げで、利下げ幅は計0.75%ポイントに達しましたが、7、9月と同様、今回の利下げもリスクに対する保険と説明されました。声明文では、次回会合での利下げの示唆と解釈された「適切に行動する」との表現が削られ、「政策金利の適切な道筋を評価する」との表現に置き換えられました。また、パウエル議長は記者会見で、経済が見通し通りに推移すれば現在の金融政策姿勢が適切なままでありそうなことや、政策対応には経済見通しの大幅な見直しが必要であることなどを述べ、追加利下げに距離を置きました。これで景気回復局面半ばでの予防的な利下げはひとまず終え、金融政策は当面様子見姿勢に入ると見込まれます。

一方、利上げにはインフレの大幅な上昇が必要であると述べており、利上げのハードルは追加利下げ以上に高いことがうかがえます。90年代には予防的な利下げの後、利上げに転じた経緯がありましたが、インフレ期待が低いままの現状では、往時の様な金利上昇は見通しにくいのが実情です。追加利下げもなければ利上げもなく、現行の政策金利水準の下、緩和的な金融環境が長期化すると見込まれます。もっとも、金融政策が米中の通商交渉に左右される点は否めず、今後の通商交渉の行方を注視する必要があります。

米国の政策金利

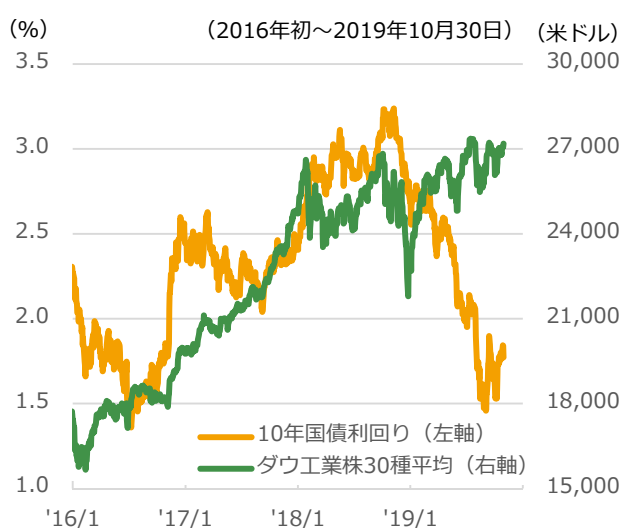


※決定日ベース

※2008年12月16日以降は誘導レンジの中心を表示

(出所) 米国連邦準備制度理事会

米国の長期金利と株価



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。